

近代(明治期)文学史の整理

まずは大字の作家・作品を文学史常識として覚えておこう

○いわゆる近代文学は、明治期に西欧の文学に触れた文学者達
それまでの日本にはなかったスタイルの詩や小説を作り始めた
あたりから始まります。

ドイツに医学留学した**森鷗外**は海外文学を日本に積極的に紹介
訳詩集「於母影(おもかげ)」
アンデルセンの翻訳「即興詩人」などが有名です
また、雑誌「めざまし草」「しがらみ草紙」などで文学を世間
に広めようと努めました

「代表作品」は
ドイツ留学の経験に基づく「舞姫」

当時の文壇の人々をモデルにした「青年」
また陸軍の軍医として出世し陸軍軍医総監にまで上り詰めた。

安楽死の問題をテーマにした「高瀬舟」
史実に基づく「阿部一族」「山椒大夫」「波江抽斎」など

鷗外は作家としても軍人としても頂点を極めた希有な人物です。

イギリスに留学した**夏目漱石**は、親友**正岡子規**の主催する俳句
雑誌「ホトトギス」に、小説「吾輩は猫である」を連載したこと
がきっかけで小説家としてデビュー(それまでは帝大の英語教授)
しました。

以後、「ホトトギス」に「坊っちゃん」「草枕」を発表
のち、朝日新聞社の専属作家となり次々に作品を発表します。

第一作「虞美人草」
明治の知識人の生き方をテーマにした

「三四郎」「それから」「門」から、
人間のエゴイズムをテーマにした

「彼岸過迄」「行人」「こころ」へ進むあたりで胃潰瘍が悪化
自身の半生を振り返る自伝的作品「道草」を発表したのち

終生のテーマとなった人間のエゴイズムを深く追究する作品と
なるはずだった「明暗」にとりかかりました
病気が悪化、わずか十年の作家生活を終えました。

活躍の期間は短かったのですが文学界に巨大な足跡を残しました。

この二人がいわゆる「日本の二大文豪」

二大文豪以外では…

○江戸の戯作文学の流れをくむ流行作家たち

尾崎紅葉 当時最高の流行作家

小説家集団「硯友社」を主宰
雑誌「我楽多文庫」

代表作「金色夜叉(いんぎきやこや)」

弟子では泉鏡花が有名

代表作は「高野聖(こうやひじり)」

この二人で「紅露時代」を実現

幸田露伴

代表作「五重塔」「風流伝」など
古いが端正な文体で人間の理想を追求

他に、江戸文学の流れでは

樋口大祐が独自の作品を残しました
代表作「たけくらべ」「にこりえ」など

独自路線の作家

耽美派 **谷崎潤一郎**

代表作は源氏物語をそのベースにした
「細雪(ささめゆき)」「刺青」「春琴抄」

漢文の素地を生かした**中島敦**

代表作は「山月記」「名人伝」「李陵」など

▽シエイクスピア研究で有名
だった**坪内逍遙**が、評論
「小説神髓」で、小説とは
人間の心情や社会の状況を描
くものであると規定しました
が、逍遙自身は自分の理想を
作品で実現できませんでした



逍遙が示した小説の方向性
を追求した**二葉亭四迷**が言文
一致体の作品「浮雲」を完成。
二葉亭四迷は「小説総論」と
いう評論も書きました

▽東京帝国大学の学生だった
芥川龍之介は漱石に「鼻」
を勧められ、本格的に作家
の道へ。彼の死後芥川賞を
創設した菊池寛らとともに、
雑誌「新思潮」に多くの作
品を発表しました。彼は母
親が精神病者であったこと
から自分が発狂するのでは
ないかという恐怖を抱いて
おり、三十五歳の若さで自
殺してしまいました。多
数の傑作を残しましたが、
代表作は王朝物と呼ばれる
「羅生門」「手紙」「地獄変」
幼年時代を回想した「下口
ツ」社会を風刺した「河童」
遺作「齒車」などです。

○フランス自然主義文学の影響を受け

「写実」を重んじる「自然主義」の作家たち

田山花袋(かたい)…代表作「田舎教師」「蒲団」
など

島崎藤村(浪漫主義から転向)

代表作
日本初の近代詩集ともいわれる「若菜集」

部落差別の問題を描いた「破戒」
父をモデルに明治維新期を描いた「夜明け前」
など

○人道主義と言われる学習院大学出身の作家たち

「白樺派」(※「白樺」は彼らの雑誌)

志賀直哉…代表作「小僧の神様」「清兵衛と瓢
「城の崎にて」「暗夜行路」など

武者小路実篤…代表作「友情」

有島武郎…代表作「生まれ出づる悩み」

○全く新しい表現・文体を確立した作家

新感覚派
川端康成 代表作…「伊豆の踊子」「雪国」「千羽鶴

横光利一 代表作…「機械」「紋章」「旅愁」

近代文学史の整理（明治前後の詩と短歌・俳句）

詩・短歌・俳句についてはとりあえず主な人物と作品を覚えておけばよいでしょう。

詩

近代詩はまずヨーロッパの詩を真似た新体詩から始まります。

最も初期のものはヨーロッパの詩を翻訳した訳詩集です。特に有名なのが：

森鷗外「於母影（おもかげ）」

上田敏「海潮音（かいちようおん）」 などです。

日本風の近代詩集のさがげとされるのが、

島崎藤村「若菜集」 です。

以下、日本近代詩の作者たちのうちの主な人物と作品（詩集）を挙げておきます。

言葉の魔術師と言われた**北原白秋**「邪宗門」「思ひ出」

理想主義と言われた**高村光太郎**「道程」「智恵子抄（ちえこしよ）」「

日本近代詩の完成者とされる **萩原朔太郎**（さくたろう）「月に吠える」「青猫」など

抒情詩人（しみじみした感情を歌う）として名高い室生犀星「抒情小曲集」

近代詩を代表する詩人**三好達治**「測量船」

若くして亡くなった天才詩人**中原中也**（ちゅうや）「山羊の歌」

まずはこの人達の名前と作品を覚えておきましょう。

短歌・俳句

短歌の世界では

浪漫派が雑誌「明星」を中心に活躍しました。

与謝野晶子「みだれ髪」

北原白秋「桐の花」

石川啄木「一握の砂」「あこがれ」

もう一つの大きな勢力が、短歌雑誌「アララギ」に集まったアララギ派です。この派に属した歌人と代表作（歌集その他）は

リーダーとして当時の歌壇・俳壇を引っ張った**正岡子規** 歌論「歌よみに与ふる書」

伊藤左千夫 小説「野菊の墓」

長塚節（たかし） 小説「土」

歌人として最も成功し叙勲もした**斎藤茂吉**「赤光（しゃっこう）」

これ以外では酒を愛し、自然主義短歌を志向した**若山牧水**「海の声」が有名です。

なお、正岡子規は俳句の世界でも第一人者として活躍、雑誌「ホトトギス」を中心に多くの俳人を育てました。残念ながら彼は若くして脊椎カリエスで無くなってしまったため、彼の後を継いだ**高浜虚子（たかはまきよし）**がその後の俳句運動を支えました。

○到達度テストに向けては、太字の部分だけ覚えていれば十分です。